

## 秋山財団「受領者からのメッセージ」及び特別講演会のご案内

公益財団法人 秋山記念生命科学振興財団では、2017 年度 贈呈式式典の中で、標記のプログラムについては、一般公開致します。

今年度の公開プログラムは、秋山財団の受領者（受領プロジェクト）の中から 3 組の方に「受領者からのメッセージ」として発表頂く企画と株式会社 ソニーコンピュータサイエンス研究所 シニアリサーチャー 桜田 一洋氏を講師にお招きしての特別講演会です。

秋山財団では、市民の皆様、教育関係者、学生の皆様のご出席を心よりお待ちしております。

○日時：9月7日（木） 13時30分～15時30分

○会場：札幌プリンスホテル 国際館パミール 3階

（札幌市中央区南3条西12丁目 TEL011-241-1111）

○「受領者からのメッセージ」

- ・『海鳥と水銀を追跡せよ！』
- ・『知育・徳育・体育・食育そして『災育』』
- ・『地域医療とサイエンス』

○ 特別講演会

- ・講師：桜田 一 洋 様  
（株式会社 ソニーコンピュータサイエンス研究所 シニアリサーチャー）
- ・演題：『 「生命とはなにか」  
～コーディネーションによる自由の創出～ 』

○「受領者からのメッセージ」及び特別講演会は 13時30分～15時30分までの、ワンセットのプログラムです。途中での入場は出来ません。

《ご予約について：必ず事前予約が必要です》

- 一般公開（募集定員）：50名、無料（※先着順です。定員となり次第締め切ります）
- ご予約方法：財団事務局宛に、[メール](#)または[ファックス](#)にて、お申込みください。  
（※下記ご参照ください。お電話でのご予約はできませんので、ご注意ください）
- ご予約の際には、「お名前」、「ご住所」、「お電話番号」をお知らせください。

《プログラムについて》

- ・9月7日、12時30分開場（受付は2階）、13時30分開始、自由席です。

以上

公益財団法人 秋山記念生命科学振興財団事務局  
〒064-0952 札幌市中央区宮の森2条11丁目6番25号  
TEL：011-612-3771 FAX：011-612-3380  
E-mail：office@akiyama-foundation.org  
<http://www.akiyama-foundation.org>

《ご参考》



株式会社 ソニーコンピュータサイエンス研究所

シニアリサーチャー 桜田 一洋 様

「生命とはなにか」

～コーディネーションによる自由の創出～

- 1) 自然科学と自然哲学
- 2) 医療と生命医科学の課題
- 3) 機械論の生命科学と複雑系の科学
- 4) 疾患発症モデルの変遷
- 5) 身体状態の記述と人工知能による推論
- 6) 新たな総合理論の確立

# 略 歴

## 桜田 一洋 (さくらだ かずひろ)

### 【経歴】

- 1986年3月 大阪大学理学部生物学科卒業
- 1988年3月 大阪大学大学院理学研究科修士課程修了(小川英行教授)
- 1988年4月 協和発酵工業(株) 東京研究所 研究員
- 1991年4月 京都大学医学部研究生(中西重忠教授) 1992年7月まで
- 1993年10月 大阪大学より理学博士授与
- 1997年9月 Salk Institute 客員研究員(Fred Gage 教授) 1998年12月まで
- 2000年4月 協和発酵工業(株) 東京研究所 再生医療グループ 主任研究員
- 2004年9月 協和発酵工業(株) 退職
- 2004年10月 日本シエーリング(株) リサーチセンター センター長(2006年4月から執行役員) 兼 Schering AG, Corporate Research Management Team, Head of Research Center Japan (ドイツ、シエーリング AG 社 コポレート研究統括幹部会メンバー、日本研究部門長、SVP Class)
- 2007年1月 Schering AG 社と Bayer AG 社のドイツでの合併完了に伴い、Bayer Schering Pharma AG, Global Drug Discovery, Head of Therapeutic Research Group Regenerative Medicine (バイエル・シエーリングファーマ社グローバル研究統括幹部会メンバー、再生医療疾患領域長、日本研究部門長、SVP class)
- 2007年7月 日本シエーリングとバイエル薬品の合併完了に伴い、バイエル薬品(株) 執行役員 神戸リサーチセンター長
- 2007年12月 リサーチセンターならびに再生医療部門閉鎖に伴いバイエル薬品退職
- 2008年1月 Kleiner Perkins Caufield & Byers の支援を得て iZumi Bio Inc.を設立し Chief Scientific Officer 執行役員最高科学責任者を務める
- 2008年8月 特許ならびに技術移管完了に伴い iZumi Bio 退職
- 2008年9月 ソニーコンピュータサイエンス研究所 シニアリサーチャー
- 経済産業省 バイオタスクフォース委員会 委員(2009年度)
  - 経済産業省 N E D O 創薬診断戦略調査委員会委員(2009年度)
  - 経済産業省 N E D O 再生医療戦略調査委員会委員長(2010年度)
  - J S T C R D S 免疫、がん、発生・再生分野統合分科会委員(2010年度)
  - J S T C R D S 恒常性維持機構の解明研究委員(2010年度)
  - 理化学研究所 特別顧問 研究戦略会議委員(2011年から)
  - J S T C R D S 特任フェロー 再生医療担当(2014年3月末まで)
  - 文部科学省 革新的イノベーション創出プログラム 神戸トライアル拠点 拠点長(2013年11月から2015年3月まで)
  - 理化学研究所 医科学イノベーションハブ推進プログラム 副プログラムディレクター(2016年4月から)
  - 株式会社ミルケア ファウンダー & 社外取締役(2016年5月から)

## 第5章 特許のゆくえ

◆2008年4月11日

ヒトiPS作成

特許すでに出願

山中教授より先に

バイエル薬品

2008年4月11日、毎日新聞は朝刊（大阪本社発行）の1面トップでこう伝えた。朝日新聞の担当記者やデスクは早朝、電話で起こされ、いつせいに会社に向かった。

ドイツを拠点とする世界有数の化学メーカー・バイエル。その傘下にある日本の法人バイエル薬品（本社・大阪市）のチームが、京都大学の山中伸弥教授らのチームより早く、ヒトのiPS



バイエル薬品の桜田一洋氏  
©朝日新聞社

細胞をつくっていた、という内容だった。事実を確認して、夕刊に記事を出稿しなければいけない。

この研究はバイエル薬品の神戸リサーチセンターで行われたが、同センターそのものがその前年の2007年12月に閉鎖されていた。同センター長としてこの研究を率いた桜田一洋氏も、すでにアメリカのベンチャー企業の役員に転じていた。

「とにかく、論文を入手しよう」

桜田さんらがヒトのiPS細胞の作製を発表した論文は、2008年1月31日付のオランダの科学誌『ステム・セル・リサーチ』の電子版に掲載されたという。さっそく論文を手に入れた。

論文によると、桜田さんらはヒトの新生児の皮膚の細胞に、山中さんらが使ったのと同じ4つの遺伝子を導入し、ES細胞と似た分化能力をもつ幹細胞をつくった。遺伝子を導入するためのウイルスに、山中さんのチームとは違う種類を使うなど、独自の手法もまじえていた。

山中さんらがヒトのiPS細胞の作製成功を発表した論文は2007年11月21日付のアメリカの科学誌『セル』の電子版に載った。桜田さんのチームより2ヵ月ほど早い。

